ハ全體鮮綠色ヲ呈シテキタガ、處理ガ不充分ダツタ爲カ、腊葉デハ枝條ガ部分的ニ帶褐赤色ニ變ジタ。寫眞デ濃キ黑色ヲ呈スル部分ハ赤變シタ個所デ、淡色ナ部分ハ變色シナイ所デアル。根モ亦赤色ヲ帶ビテキル。本種ハ伊藤洋氏ノ御好意ニヨリ東大ノ腊葉ト比較シ、頭書ノ學名ノモノト同一物デアルコトガ判明シタ。(尙其ノ後田川基二氏ノ御好意ニヨリ 京大所藏ノ 標本モ閱覽スル機會ヲ與ヘラレタ。茲ニ附記シテ兩氏ニ深謝ノ意ヲ表スル)。

扨テ本變種名ハ中井教授ガ天草上島浦村念珠岳產ノ植物ニ命ゼラレタモノデアルガ、今日マデ知ラレタ範圍デハ臺灣及ビ九州（前記ノ外、天草本村及ビ福岡縣行橋附近）等二三ノ限ラレク地方ニ狹イ分布ヲナス稀有ナ植物デアル。上記ノ通リ、今回之ガ屋久島ニモ生育スルコトヲ知リ得タノデ茲ニ報告スル。(第4圖)。

(鹿兒島市下荒田町 406)

大隅屋久島ニ於ケル莪蒁ノ調製ニ就イテ

藤田路一
沈鶴鎭

Mitiiti Fujita u. Hack-chin Shim: Über die Produktion von *Rhizoma Zedoariæ* in Yakushima (Osumi)

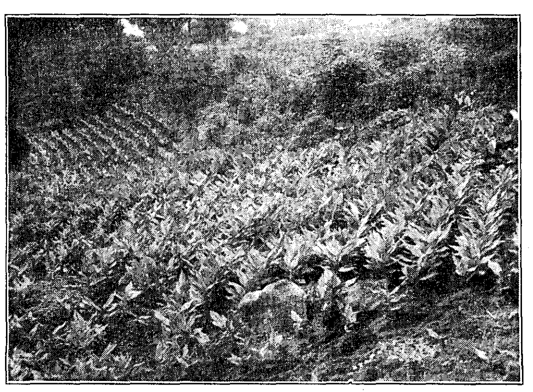


Fig. 1. がじゅつノ畑（下屋久村原ニテ 1936年8月6日 藤田撮ル）

以前カラ大隅屋久島デ日本國內ノ需要ヲ充タス丈ノ莪蒁ヲ產出スルモ鬚根ヲ火氣ニテ燒キ切ル爲メ其仕上品ガ穢イト云フ事ヲ聞イテモキタシ、又過グル昭和8年8月藤川福二郎氏ガ同島採集旅行ノ際持チ歸ラレタ該生藥ガ教室ニ所藏サレテアルノヲ見ルニ及ンデ成程ト思ツテ居タガ、先般京都帝大田代善太郎講師ヲリーだートスル九州植物同好會

主催屋久島植物實地指導會ニ參加シテ調査スルノ機會ヲ得タノデ其見聞シタ所ヲ記シテ見タイト思フ。

去ル8月2日屋久島安房(アンバウ)港ニ到着、同行ノ原田利一、三ツ野問治兩君ト一行四人デ早速安房ヨリ最モ近キ栽培製造地船行(フナユキ)——嚴密ニ云フト鹿兒島縣熊毛郡下屋久村字船行——ニ赴イタ。安房ヨリ人家一軒ヲモ見受ケラレナイ海岸線ヲ約1里東北へ走ツタ處ニ農家點在シ區劃整然ト畑ニ、或ハ不規則ニ田ノ畦ヲ圍ンデ*Curcuma Zedoaria* ROSCOE がじゅつガ栽培シテアル。大體ニ於テ稍濕氣アル處ニ栽培スルモノラシイ。尚人家ノ周圍ノ濕地ニハがじゅつガ同屬ノ *Curcuma longa* L. うこんト共ニ恰モ半自生ノ如ク生育シテヰルノヲ見受ケタ。ソコデがじゅつノ花ハナイカト丹念ニ探シタケレドモ見當ラズ——後デ聞イタコトダガ同地デハ開花ハ稀ナ由——唯うこんノミハ白色ノ苞葉美シク今ヲ盛リト咲イテイタ。同島デハ現今各處ニ莪蒁ノ栽培製造ガ行ハレテイルガ土民ノ副業デアツテ之ヲ專業トスルモノハナイ。何レニシテモ大規模的ナ製造行程ヲ採ツテイナイ。ソレハ同島ガ海岸線間近ヨリ直チニ溪谷美、山岳美ヲ具備シタ鬱蒼タル連山ヲ重疊トシテ形成シテイル爲メニ僅カニ島ノ周圍ノミガ栽培地トサレ



Fig. 2. 人家ノ周圍ノうこんト混生セルがじゅつ
(下屋久村船行(フナユキ)ニテ1936年8月2日、藤田撮ル)

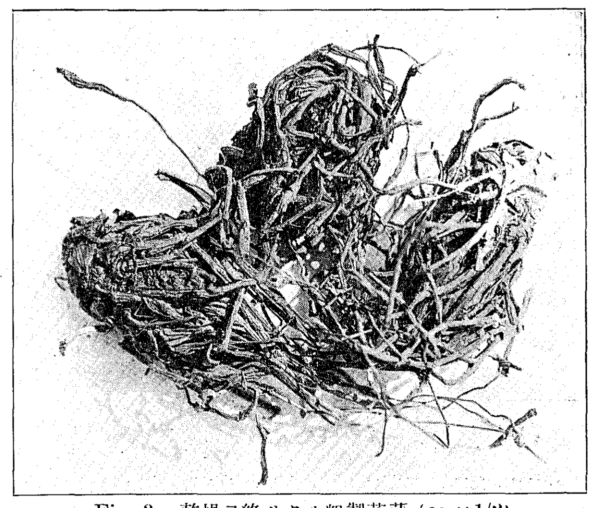


Fig. 3. 乾燥ヲ終リタル粗製莪蒁 (ca.×1/2)
(1936年9月10日、沈撮ル)

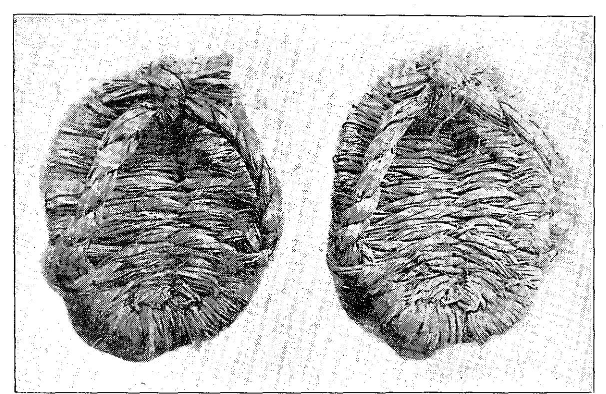


Fig. 4. アシナカ (ca.×1/4) (1936年8月2日安房ニテ沈購入セルモノ)　(1936年9月5日、藤田撮ル)

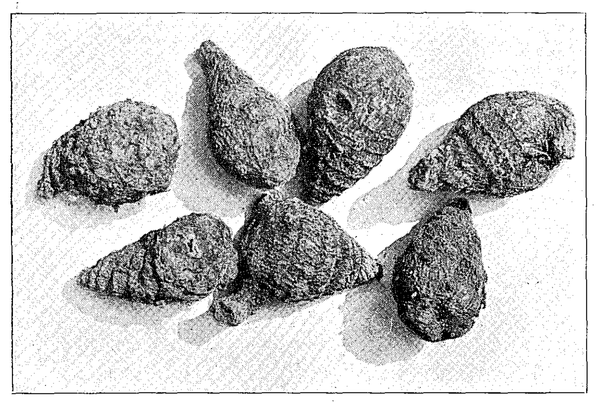


Fig. 5. 「ミガキ」ヲ掛ケタル精製莪蒁 (ca.×1/2) (1936年9月11日、沈撮ル)

ルニ過ギナイ爲デアラウ。

扨テ同島ニ於ケル莪蒁ノ調製法ノ槪略ヲ述ブレバ、栽培翌年舊11月ニ地下部ヲ採掘シ充分水洗後直徑約 1m 深サ約 30 cm ノ鐵製ノ鍋ニ入レ2—3時間煮沸スル。此目的ハ製造者ノ言ニ依レバ生藥ノ香味ヲ良好ナラシムルニ爲メデ、同時ニ太イ根ガ拔カレ易クナルトノコトデアル。然ル後手ヲ觸レレバ根ガポキポキト折レル迄ニ乾燥スル。其方法ハ最初ヨリ晴天ヲ利用シテ日乾スルコトアルモ通常ハ屋根裏ノ風通シ良キ場所ヲ選ンデ莚上ニ擴ゲ1—2ケ月ノ間風乾セシメタル後更ニ晴天ヲ利用シテ2—3日間日乾スル。完全ニ乾燥シ終レバ根ノ除去ニ取リ掛ル。多量ノ時ハ桶ニ乾燥セル粗製ノ莪蒁ヲ入レ丸キ木製ノ棒ヲ以テ芋ノ皮剝同樣攪拌シテ根ヲ除クモ少量ノ際ハ徑約 50 cm 深サ約 20 cm ノ「ショケ」ト稱スル淺キ笊ニ入レ「アシナカ」ト稱スル長サ約 13 cm 幅約 10 cm ノ殆ンド圓キ小型ノ藁草履ヲ兩手ニ履キ前ニ置イタ「ショケ」ノ中デ恰モ女子ガ洗濯板ヲ用ヒテ洗濯ヲスルガ如キ動作デ充分ニ摩擦シテ根ヲ完全ニ除去スル。以前ハ藁ヲ積ミ重ネ其上ニ大體ノ根ヲ取リ除イタ莪蒁ト藁トヲ交互ニ層積シ燻燒シテ鬚根ヲ燒キ切ル方法ヲ用ヒタルモ斯ク操作スル時ハ仕上品ノ色調惡シク上品トナラナイ爲メ現時ハ賞用シナイデ專ラ前述ノ何レカノ方法ニヨリ完全ニ細根ヲ除クトノコトデア

ル。細根ヲ除イタ後所謂「ミガキ」ト稱シテ木灰ト共ニ桶ニ入レ丸キ棒ニテ根ヲ除去スル際ノ様ニ攪拌操作シテ製品トシテ仕上ゲル。

同島ニ於ケル栽遜ノ年產額ハ約 3000 斤トノ事デ筆者等ノ赴イタ當時ノ小賣値ハ風乾シタ丈ノ粗製品ガ 1 斤 28 錢、「ミガキ」ヲ掛ケ精製セルモノ 1 斤 35 錢デアツタ。尙製造者ノ製品ハ一旦產業組合ヲ經テ各市場殊ニ大阪方面へ多ク出荷サレルトノコトデアル。

序ニ一言スレバ前述ノ通リ同島ニハ諸處ニ恰モ半自生狀態デ相當量ノうこんガ人家附近ニ生育シテヰルモ土地ノ住民ハ全然利用シナイトノコトデアル。

(1936年 9 月 14 日東京帝大醫學部藥學科生藥學敎室ニテ記ス)



Fig. 6. *Curcuma longa* L.
(下屋久村船行ニテ 1936 年 8 月 2 日、藤田撮ル)

雜 錄 Miscellaneous

○臺灣產一新唇形科植物

近著ノ HOOKER'S Icones Plantarum, 5 series. vol. III part. 2 t. 3230 (1934) デ *Micromeria formosana* MARQUAND トイフモノガ發表サレテ居ル。ひめはくかノ一種デアルガ臺灣デハ始メテノ屬デアリ、*M. Wardii* MARQUAND et AIRYSHAW ニ一番近イガ、丈ケガ低ク、枝ヲ打チ、葉小サク花冠モ小形、小苞ハ缺ク點デ區別出來ル由。丈 10 cm 程ノ多年生草本デアツテ、臺灣ノ某氏ガ Kew ニ送ツタ種子カラ發芽、育テ上ゲテ記載シタトイフ。日本ノフロラハ日本人ノ手デ當然開明サルベキモノト思ハレテ居ル今日、ソノ方面ノ人モ澤山アルニカカラハズ、所謂出シ抜カレタ態ノ事態ヲ生ジタノハ澤田氏ノ言ヲ藉リレバ民族的慨嘆ニ堪ヘヌ所デアル。 (前川文夫)

○やへがはかんば

本年八ケ嶽山麓ヲ走リ廻ツテやへがはかんば (*Betula dahurica* PALL) ヲ見テ來タノデ其寫眞ヲ出サシテ頂ク事ニシタ。何ニシロ同方面デナイトアンナニ澤山ハ見ラレナイ。尤